

日本音楽学会第76回全国大会 プログラム

大会第1日 11月1日（土）

最新情報は大会ホームページでご確認ください

1020 1030	開会挨拶（記念ホール）				1020 1030
	C213（2階） 研究発表 A 司会 山口真季子	C214（2階） 研究発表 B 司会 馬場有里子	C322（3階） 研究発表 C 司会 濱崎友絵	C324（3階） 研究発表 D 司会 近藤静乃	
1040 1120	A-1 山田真理子 ドイツと英国の ピアノ奏法理論の 相違に関する考察	B-1 大角欣矢 ガルス・ドレスラーの ツェルプスト時代再考	C-1 増野亜子 伝統を停泊させる	D-1 鈴木聖子 音響映像メディアに おける「記録」と「科学」	1040 1120
1125 1205	A-2 筒井はる香 フォルテピアノの 止音装置の変遷の研究	B-2 荒木理紗 J. S. バッハのヴァイマル期の レチタティーヴォ	C-2 山本宏子 オスマン大使たちに 随行して西ヨーロッパに 行ったメフテル	D-2 藤東君 日中音楽教育関係史の 研究：清末日本教習と 学校の唱歌教育	1125 1205
1210 1250	A-3 田川真由 1880年代のベルリンにおける オルガンと管弦楽のための音楽	B-3 佐竹那月 C. P. E. バッハの 「自由ファンタジー」原理	C-3 鈴木麻菜美 トルコのジェラーヒー教団 におけるズィクルの音楽構造	D-3 曾村みずき 大正期の琵琶歌本にみる 筑前琵琶の楽曲構成法	1210 1250
休 憩 ・ 昼 食					
	研究発表 E 司会 宮崎晴代	研究発表 F 司会 沼野雄司	研究発表 G 司会 千葉潤	—	
1330 1410	E-1 菅沼起一 16～17世紀におけるローマの デミニューション実践に 関する包括的研究	F-1 張楽 現代芸術音楽における 文化的越境と対話的自己の 構造化	G-1 神竹喜重子 ロシア正教古儀式派の音楽美学	パネル企画 ① 1330-1500 「環境音楽」再考 大島徹 中川克志 鳥越けい子 広瀬正浩	1330 1410
1415 1455	E-2 木村遥 《偉大にして古き吟遊詩人組合 の年代記》にみる風刺の手法と 受容基盤	F-2 田久保友妃 戦前日本のプロレタリア 芸術運動における音楽家の活動	G-2 山本明尚 初期ソ連における反宗教音楽		1415 1455
10分調整（休憩）					
1505 1545	E-3 吉川文 中世の音楽理論書における ギリシャ音名表記について	F-3 西村理 新日本放送（NJB）における 現代音楽の放送	G-3 中原豪志 バッハ＝ラフマーニノフの バルティータにおける編曲者の 創造性	パネル企画 ② 1505-1635 「前期」テンポ・ルバート再考 鷲野彰子 上田泰史 ヘルマン・ゴツェフスキ 橋本峻平 神保夏子	1505 1545
1550 1630	E-4 野川夢美 「ブリカ plica」は どう歌われたのか	F-4 那須晴樹 戦後日本の現代音楽と 批評の創造性	G-4 高東奈央 ショスタコーヴィチ 《24の前奏曲とフーガ》 における修辞的要素		1550 1630
休 憩					
1650	総 会（記念ホール）				1650
1930	情報交換会（B403 響流ホール）				1930

大会第2日 11月2日（日）

	C213 (2階)	C214 (2階)	C322 (3階)	C324 (3階)	
	研究発表 H 司会 沼口隆	研究発表 I 司会 宮川渉	研究発表 J 司会 太田峰夫	—	
1030	H-1 高松晃子 メヌエットから マーケットへ	I-1 藤井愛子 E. ブラウンの1960年代に おける「開かれた形式」 の作曲手法	J-1 木村優希 バルトークによる バロック期鍵盤楽器作品 のピアノ用編曲の手法	パネル企画 ③ 1030-1200 喜劇オペラの喜劇性	1030
1110					1110
1115	H-2 松田健 ベートーヴェン交響曲 日本初演譜の発見	I-2 飯島帆風 ジェルジ・リゲティの 作品における 「メタ・ポリフォニー」	J-2 中原佑介 バルトーク・ベアラの 作品分析への新しい アプローチ	稲田隆之 木内涼 萩原里香 松田聡	1115
1155					1155
10分調整（休憩）					
1205	H-3 奈良沙織 19世紀前半の楽譜出版と ベートーヴェンの楽譜の 価格プレミアム	I-3 秋道瑠香 モーリス・ドラージュの 作品目録再編に向けて	J-3 高宮理彩子 19世紀末ブラハにおける 芸術協会音楽部門の活動	パネル企画 ④ 1205-1335 東アジアに位置する 研究者にとっての グローバル音楽史の再考	1205
1245					1245
1250	H-4 新林一雄 18世紀ドイツの宮廷楽団 に所属した管楽器奏者	I-4 植村遼平 オリヴィエ・メシアン の「移高の限られた技法」 の構想過程	J-4 栗田桃子 カロール・シマノフスキの 《幻想曲》作品14の背景 にみる詩作	福中冬子 李恵平 曹有敬 楊建章	1250
1330					1330
休 憩 ・ 昼 食					
	研究発表 K 司会 萬司	研究発表 L 司会 福中冬子	研究発表 M 司会 稲田隆之	研究発表 N 司会 澁谷政子	記念ホール
1410	K-1 加藤新平 早坂文雄の 《ホルン小協奏曲》 について	L-1 SHEN, Diau-long Inheritance and Derivation in Eurocentrism	M-1 丸山瑤子 Oliver! における ナンバーの再現を用いた 悲劇と幸福の転換	N-1 高畑和輝 “Doing Timbre”をめぐる 理論的検討	1410
1450					1450
1455	K-2 山口真季子 シューベルト・オペレッタ 《三人娘の家》の日本に おける展開	L-2 許慕瑄 人民戦線期における アメリカ左翼の 音楽的志向	M-2 佐野旭司 「創造的音楽家協会」 再考	N-2 柴田蒼良 「音画」概念の形成 における修辭学的作用	1455
1535					1535
1540	K-3 HARVEY, Thomas 高田三郎による詩の 音楽的表象	L-3 劉麟玉 台湾出身作曲家江文也の 1934-1945年作品にみる 日本的表現の諸相	M-3 室井七海 ドビュッシーの 《ボードレールの5つの詩》 における歌唱旋律	N-3 中津川侑紗 音楽の「真実」をめぐる ふたつの視座	1540
1620					1620
1625	K-4 竹内伶奈 團伊玖磨の歌劇 《建 Takeru》における 音楽構造の検討	L-4 向井大策 《カーリヤー・リヴァー》 における文化的邂逅の 政治学と詩学	M-4 笠井恵理子 ドレスデン時代における シューマンの ドイツ・オペラ創作	N-4 大高誠二 スカート構造	1625
1705					1705
休 憩					
1715	閉会挨拶（記念ホール）				1715
1725					1725